

「タイ・チュラロンコン大学サマースクール参加報告書」

京都大学教育学部2年 永田百花

今回のプログラムへの参加を通して、私はタイという国への関心がより深まったと実感しています。このプログラムへの参加を決意した理由としては、以前旅行でタイを訪れたことがあり、その際にタイを好きになったからでした。旅行だけでは感じることができない現地の文化や生活などを肌で感じたいという思いから、今回は留学という形をとることにしました。

プログラムの内容としては、チュラロンコン大学（以下チュラ大）でのタイ語の講義やチュラ大で日本語専攻の学生らとの交流に加えて、実地見学という形でのアユタヤ遺跡や寺院の見学などと、多様な活動を行いました。中でも、タイ語の授業は私にとって非常に興味深いものでした。ネイティブの先生から直にタイ語を教えてもらい、その表現をチュラ大の学生との会話の中や、町での現地の人との交流の中で活かすことができました。タイの人たちは一般的にフレンドリーな性格ですが、私たちがカタコトなタイ語を話す、さらに温かい笑顔を向けてくれました。このように、現地の言葉を話すことで生まれる交流や繋がりはかけがえない体験だったと思います。また、チュラ大の学生との交流を通して、私はタイやその国民性について深く理解することができました。私たちがタイについての疑問点や気になる点を彼らに投げかけると、彼らなりに答えを与えてくれました。そのおかげで、タイの文化や宗教、王族、生活、勉強、食べ物、などのように幅広い物事について正しい理解をできました。また、チュラ大の学生との共同発表を通して、互いの国に固有の文化についてその差異や共通点を理解し合うことができました。

今回の2週間の滞在を通して、私はタイという国とそこで生活する人たちをより好きになりました。滞在中には実際に町に出る機会が多かったため、タイの多面性を感じ取ることができました。バンコクには、整備されたビルや複合施設が立ち並ぶ一方で、そのすぐ近くにはその日の生活を懸命に送っている人が集まる区域が存在します。これらの現実についても片鱗ではあるかもしれませんが、自分の目で見ることは良い経験だったと思います。このような風景について日本と比較して優劣を評価するのではなく、タイ固有の風景として捉えることができたのは、今回の留学のおかげで異文化理解に対して寛容になった証ではないかと思います。

今回の留学を通して、私はタイという国の神秘さとタイ語の不思議さに魅了されました。そのため、タイ語の学習を主体的に行っていき、再びタイを訪れて現地の人と交流したいです。